

[03] 大学教育研究センターニュース

<https://hdl.handle.net/2324/20132>

出版情報：大学教育研究センターニュース. 3, 1994-12-09. 九州大学大学教育研究センター
バージョン：
権利関係：



大学教育研究センターニュース

No. 3

平成6年12月9日 発行

(編集)九州大学大学教育研究センター

今号の主な内容

- ・ 第3回大学教育研究センター委員会開催される。
- ・ 第4回大学教育研究センター委員会開催される。
- ・ 第2回全学共通教育自己点検・評価委員会開催される。
- ・ 平成6年度九州地区国立大学間合宿共同授業開催される。
- ・ 九州地区一般教育研究協議会開催される。
- ・ 七国立大学共通教育主幹部局長会議開催される。
- ・ 九州地区国立大学教養部長会議開催される。
- ・ 平成7年度全学共通教育科目授業担当予定者へのお願いとお知らせ
 - 1 シラバスについて
 - 2 選択履修科目の履修希望者の取扱いについて
 - 3 平成7年度時間割の構造について
- ・ 全学共通教育関係会議開催記録
- ・ 言語文化科目実施部会委員名簿
- ・ 健康・スポーツ科学科目実施部会委員名簿

第3回大学教育研究センター委員会が開催されました。

9月29日、六本松地区で上記委員会が開催され、以下のことを審議決定した。

- 1 平成6年度、全学共通教育経費予算配分(案)を承認した。
- 2 平成5年度以前入学者に対する旧カリキュラム科目への読み替えについて、読み替え科目一覧表を承認した。
- 3 低年次専攻教育科目(法学部)の授業科目名の訂正を承認した。
- 4 非常勤講師の任用に係る手続日程を審議決定した。

手続日程は、11月上旬に非常勤講師の任用予定者調書の提出。任用時間数の要求案の決定。11月下旬の部局長会議による任用時間数の決定を受けて、12月中

旬にセンター委員会で任用予定者を決定。1月の関係学部教授会での資格審査を経て、2～3月に委嘱状の送付という日程となる。

また、新規以外の非常勤講師の任用変更等については、今後、全学共通教育実施委員会で審議決定することを承認した。

- 5 工学部機械系学科の低年次専攻履修科目の開講時期の変更について承認した。

第4回大学教育研究センター委員会が開催されました。

10月25日、六本松地区で上記委員会が開催され、以下のことを審議決定した。

- 1 平成6年度前期追試験申請者一覧を承認した。
- 2 平成6年度進学査定のための成績資料を承認した。この成績資料は、当日午後、各学部送到られ、各学部教授会で進学査定が行われた。

なお、本年度の進学の概況は、進学者数2,410名、残留者数323名、残留率11.8%となっており、昨年の残留率11.5%より0.3%増加したものの、ここ10年の低落傾向に変化はない。

第2回全学共通教育自己点検・評価委員会が開催されました。

10月31日、六本松地区で上記委員会が開催され、以下のことを審議決定した。

- 1 今年度から新たに設けられたカリキュラムと、箱崎日(病院地区日)についての学生に対するアンケート調査を、次の要領で実施する。

なお、アンケートの項目・内容については、下部組織である3つの評価改善委員会で、それぞれ2回にわたって検討した。

- (1) アンケートの対象は1年生全員とし、11月7日から11日の週に、文系については英語の時間に、理系については数学の時間にそれぞれ実施する。
 - (2) アンケートは、5段階調査方式のものと、自由記述式のものの2通りの方法で実施する。
- 2 アンケート調査の結果は、平成7年2月以降に、報告書を作成し、radix等でも公表する。

平成6年度九州地区国立大学間合宿共同授業が開催されました。

7月9日から13日にかけて、九重共同研修所において、「九州・沖縄の自画像－過去・現在・未来－」という統一テーマの下に、学生90名、教職員38名の参加を得て開催された。

統一テーマに沿った個別講義と講義のための討論、特別講義、フォーラム、久住登山、懇親会と、例年どおりに実施されたが、今年は特にフォーラムにおいて、基調報告及び司会を学生が行うという新しい試みが導入され、一定の成果をあげた。

九州地区一般教育研究協議会が開催されました。

第43回の一般教育研究協議会が、10月6日及び7日に、九州各地域の国・公・私立大学からの多数の参加を得て、九州大学六本松地区において開催された。

本年度の統一テーマは、「改革の中の一般教育」で、熊大、琉大、福大から三つの報告がなされ、また各部会（人文・社会科学、自然科学、外国語、保健体育）報告も、この統一テーマに沿ってなされ、熱心な討議が行われた。

七国立大学共通教育主幹部局長会議が開催されました。

会議は、10月26日及び27日に名古屋大学において開催され、全学共通教育の実施に関する現状と問題点について、次のような報告と意見の交換が行われた。

1 大阪大学

共通教育への全学参加という理念はまだ十分には実現していないが、徐々に全学参加体制への移行をめざしている。

シラバスは、平成7年度において全学的に作成するよう努力中である。

T. Aは、本年度後期から総長特別経費の支出をお願いしてスタートする予定。今後、共通教育のT. Aについての全学委員会を発足させたい。

2 京都大学

教養部が廃止され、総合人間学部が高度一般教育の実施責任部局となったが、学部発足に当たって、多くの教官の他学部移籍が行われたので、高度一般教育の実施のためには、他学部からの協力が必要である。

学部提供科目は、平成5年から7年にかけて、54科目、99科目、108科目と増大し、徐々に全学参加体制の整備に向かっている。また、今年の改革の目玉である各研究所からの提供科目が20を越え、学生の関心を集め、共通教育の多様化、高度化に大きな成果をあげている。

T. Aは、総長特別経費の支出をお願いして、今後実施する予定。

外国語履修者の中で、中国語履修者が急増し、フランス語履修者を越えた。

3 東京大学

平成5年4月より前期課程教育のカリキュラムの抜本的改革を行い、教育内容の大幅な革新につとめてきた。

こうした教育改革が、教室での授業にどのように反映したかを明らかにすること

を目的として、学生論文集『シンポジオン1993』を刊行。情報教育の充実をめざし、現在約1,400台の端末の設置。T. Aは、高度化推進経費を2,400万円充当し、実施。外国語の受講者は、京都大学と同じく中国語履修者が増加している。

4 東北大学

共通教育を全学で担当するという原則はあるが、移行期のため、この原則の実施をめぐる問題が生じている。また、4年(6年)一貫の新カリキュラムに移行するに伴い、低年次専門教育との関係で、学部の教室の不足というハード面での問題が生じている。

学部移籍の旧教養部の教官は、研究室を来年以降学部に移す。

シラバスは、現在検討中。来年度から作成することになる予定であるが、未定。

外国語教育は、大学教育研究センターの下で、全学的に担当する。

5 北海道大学

これまで共通教育については、全学教育部という組織の下に行ってきたが、これは官制化されたものではなく、教官定員がついていなかった。現在、組織の改編について概算要求中であり、来年度にはほぼ実現の見通しである。

めざされている高等教育機能開発総合センター(案)は、センター長(副学長)が統轄し、全学教育部(部長はセンター長兼任)、高等教育開発研究部、生涯学習計画研究部の三部から成る。また、学生部が改組され、学務部となり、共通教育を担当する教務課がその中に置かれる。

6 名古屋大学

共通教育は、全学協力で行うという原則は確認されているが、現状は、新設の情報文化学部やや負担がかかっている。

組織改編については、全学の数学教育を担当する責任部局として、多元数理研究科の新設がめざされている。

T. Aは、これまでその費用の85%を総長特別経費に依存して実施してきており、大きな成果をあげている。

九州地区国立大学教養部長会議が開催されました。

11月10日及び11日に、琉球大学において上記の会議が開催された。

平成7年度(第20回)の九州地区国立大学間合宿共同授業の当番大学を佐賀大学教養部とすることを決めた後、大学改革の検討状況と一般教育(共通教育)の諸問題について、各大学の現状報告をし、意見の交換を行った。

すでに教養部組織の改編をすませ、新カリキュラムを実施している九州大学を除いて、各大学は新カリキュラムの実施が先行し、組織の改編はこれからというのが現状である。

平成7年度全学共通教育科目授業担当予定者へのお願いとお知らせ

1 シラバスについて

コア教養科目、基礎科学科目等については、それぞれ共通シラバス（全学共通教育科目履修の手引きに掲載）がつくられています。平成7年度の共通シラバスは、現在改訂作業中ですが、これらの授業科目の担当教官は、共通シラバスに沿った形で授業を進めていくことになっていきますので、平成7年度の授業計画をつくるに当たって、ご配慮いただきますようお願いいたします。

なお、各担当教官毎の授業要綱・授業計画（個別シラバス）については、平成7年度分から、授業開始の前月の末までに提出していただくことを予定しています。

2 選択履修科目の履修希望者の取扱いについて

学生が選択履修する科目については、クラス毎の偏り等が起こり、さまざまな問題が生じがちです。そのため、できるだけ次の基準に沿って、学生に対する履修指導をしていただきますようお願いいたします。

(1) コア教養科目、周辺教養科目について

1クラスの履修者を、200名程度までとする。

(2) 少人数科目について

1クラスの履修者を、20名程度までは受け入れる。

(3) 学際主題科目（1年間継続）について

履修者を、さまざまな異なる学部の学生によって構成する。

3 平成7年度時間割の構造について

平成7年度時間割は、新カリキュラムだけとなりますが、その構造は主に次のようになる予定です。

(1) 履修対象学生が全学部にまたがる科目は、5時限目に配置し、その他の科目はできるだけ4時限目までに納める。

(2) コア教養科目は午前中に、周辺教養科目は午後に配置する。

(3) 周辺教養科目の履修は、1年生については、各学期1ないし2科目に制限されるが、2年生については自由とする。

(4) 2年前期にコア教養科目を履修する者は、原則として、5時限目開講のクラスにおいて履修する。

(5) 少人数科目は、5時限目に開講する。

全学共通教育関係会議開催記録

- 7月18日(月) ・ r a d i x 編集委員会
- 8月17日(水) ・ 全学共通教育実施委員会・教養教育科目実施部会・基礎科学教育科目実施部会の合同会議
- 8月17日(水) ・ r a d i x 編集委員会
- 8月31日(水) ・ r a d i x 編集委員会
- 9月19日(月) ・ 学生アンケートに関する検討会議
- 9月29日(木) ・ 第3回大学教育研究センター委員会
- 9月30日(金) ・ 言語文化教育評価改善委員会
- 10月 4日(火) ・ 基礎科学教育評価改善委員会
- 10月 5日(水) ・ 教養教育等評価改善委員会
- 10月20日(木) ・ r a d i x 編集委員会
- 10月25日(火) ・ 第4回大学教育研究センター委員会
- 10月31日(月) ・ 第2回全学共通教育自己点検・評価委員会
- 11月 4日(金) ・ 全学共通教育実施委員会

以上 大学教育研究センターニュース (NO. 2) 掲載以降に開催の分

言語文化科目実施部会委員名簿

職 名	科 名	氏 名
部 会 長	英 語	鬼 塚 敬 一 教 授
	英 語	徳 見 道 夫 教 授
副 部 会 長	ド イ ツ 語	田 畑 義 之 助 教 授
	フ ラ ン ス 語	森 茂 太 郎 助 教 授
	ス ペ イ ン 語	山 村 ひ ろ み 助 教 授
	中 国 語	日 下 み ど り 助 教 授
	ロ シ ア 語	金 子 暢 良 助 教 授
	日 本 語	陣 内 正 敬 助 教 授
	朝 鮮 語	松 原 孝 俊 助 教 授

健康・スポーツ科学科目実施部会委員名簿

職 名	氏 名
部 会 長	小 宮 秀 一 教 授
副 部 会 長	多 々 納 秀 雄 教 授
	川 崎 晃 一 教 授
	堀 田 昇 助 教 授